



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、『スパークス・日本中小型株式ファンド
(ラップ向け)』は、このたび、第10期の決算を
行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・日本中小型
株・マザーファンド受益証券を通じて、日本の上
場株式のうち中小型株に投資し、信託財産の中長
期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを
基本としました。ここに、運用状況をご報告申し
上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申
し上げます。

< お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス
リテール・ビジネス・デベロップメント部
電話：03-6711-9200(代表)
受付時間：営業日の9時～17時
ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体
版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めておりま
す。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いた
だけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社ま
でお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「投資信託」より当ファンド
を選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

交付運用報告書

スパークス・日本中小型株式ファンド (ラップ向け)

追加型投信／国内／株式

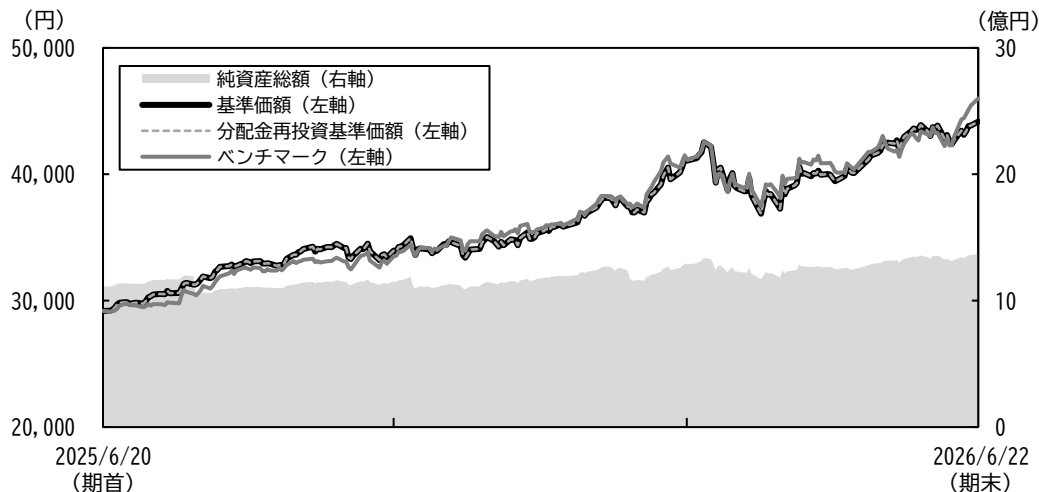
第10期(決算日 2026年6月22日)
作成対象期間(2025年6月21日～2026年6月22日)

第10期末 (2026年6月22日)	
基準価額	44,157円
純資産総額	1,371百万円
第10期 (2025年6月21日～2026年6月22日)	
騰落率	51.3%
分配金合計	0円

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したも
のとなして計算しています。

運用経過

■ 基準価額等の推移（2025年6月21日～2026年6月22日）



第10期首： 29,185円

第10期末： 44,157円(既払分配金0円)

騰 落 率： 51.3%(分配金再投資ベース)

※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。

※ ベンチマークは期首(2025年6月20日)の基準価額に合わせて指数化しております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・日本中小型株・マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)を通じて、日本の中小型株式に投資しております。

当期は日本株式市場が上昇する運用環境の中、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資しました結果、基準価額は期首に比べ51.3%(分配金再投資ベース)上昇しました。

■ 1万口当たりの費用明細

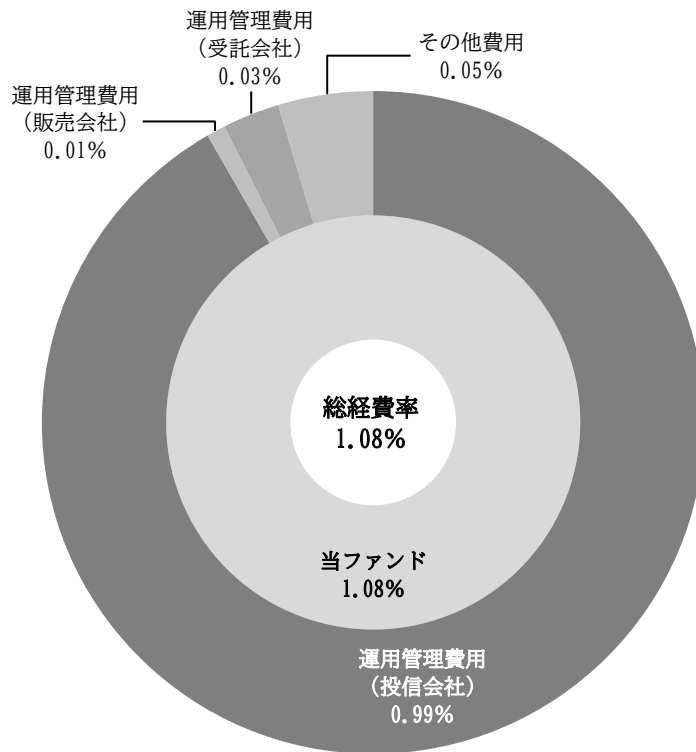
項 目	当期 2025年6月21日～2026年6月22日		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	377円 (361) (4) (12)	1.041% (0.997) (0.011) (0.033)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・ 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	24 (24)	0.066 (0.066)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 有価証券等を売買する際に発生する費用
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用)	20 (3) (17)	0.055 (0.008) (0.047)	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ 法定書類等の作成、印刷費用
合 計	421	1.162	
期中の平均基準価額は36,223円です。			

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



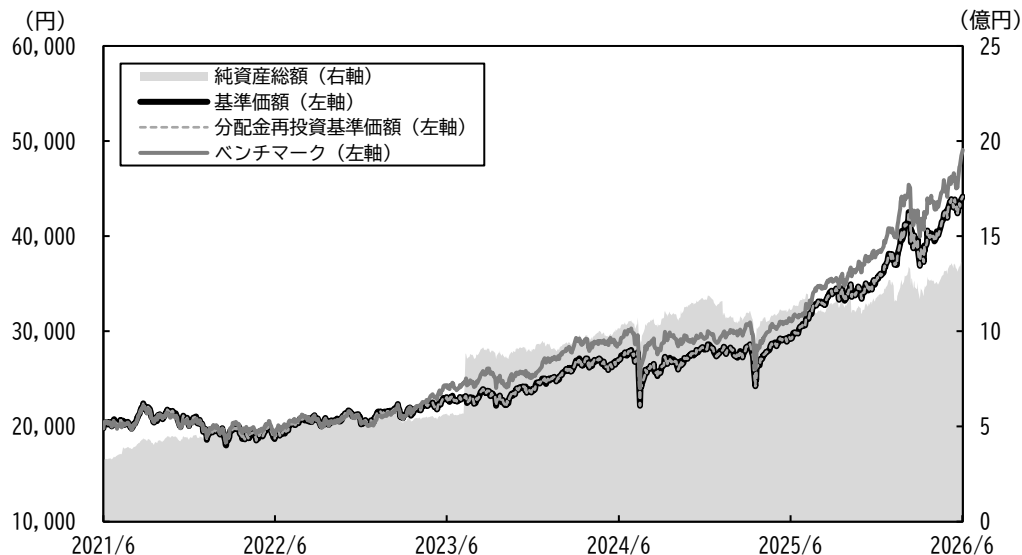
（注）当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

（注）各比率は、年率換算した値です。

（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移（2021年6月21日～2026年6月22日）



※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ ベンチマークは2021年6月21日の基準価額に合わせて指数化しております。

	2021/6/21 決算日	2022/6/20 決算日	2023/6/20 決算日	2024/6/20 決算日	2025/6/20 決算日	2026/6/22 決算日
基準価額 (円)	19,797	18,658	22,916	27,016	29,185	44,157
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 5.8	22.8	17.9	8.0	51.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	△ 3.5	26.5	18.4	8.8	57.6
純資産総額 (百万円)	318	468	563	1,017	1,111	1,371

※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。

ベンチマークの詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■ 投資環境

当期の日本株式市場は、通期で上昇して終了しました。期を通じて、米国大手企業による旺盛なAI（人工知能）投資を背景に、半導体などの関連銘柄群が相場全体を牽引しました。中東紛争によるホルムズ海峡封鎖を背景に一時的にリスク回避の動きが強まる場面もありましたが、AI関連銘柄は力強い上昇を維持し、結果的に良好な地合いのもとで期末を迎えました。

■ ポートフォリオ

< スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） >

当ファンドは、マザーファンドを通じて、日本の中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行うことを基本とします。マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。このため基準価額は、マザーファンドに組み入れられた資産の変動の影響を大きく受けました。

< スパークス・日本中小型株・マザーファンド >

当ファンドでは、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資します。また、市場における過度な悲観や関心の低下により、弊社が計測する長期的な企業価値に対して割安に放置されていると考える企業にも投資を行います。

当ファンドでは、あらかじめ業種毎の比率を決めてから銘柄を組み入れるのではなく、ボトムアップ・リサーチに基づき投資魅力が高いと考える銘柄を選別し、株価上昇余地やリスク要因、株式の流動性や株価が再評価されるまでの時間軸等を考慮して、ポートフォリオを構築しています。

当期においては、西日本を中心にディスカунストアを展開する大黒天物産、自動車用オイルシールで高いシェアを持つNOK、シャッターの最大手メーカーである三和ホールディングスなどに投資を行いました。

一方で、埼玉県地方銀行である武蔵野銀行、上下水処理や産業用プラントなどを手掛ける月島ホールディングス、大丸松坂屋百貨店などを運営するJ．フロント リテイリングなどの株式を全売却しました。

（主なプラス要因）

当期のパフォーマンスにプラスに寄与した主な銘柄は、関東電化工業、ダイヘン、西日本フィナンシャルホールディングスなどです。

関東電化工業は、半導体製造用の特殊ガスなどを手掛けるメーカーです。当ファンドでは、半導体市場の成長に伴う特殊ガスの需要増加に期待して投資を行っています。当期においては、半導体メーカーの稼働率上昇に伴うガスの供給量増加・単価上昇期待の高まりなどで株価が上昇したものと考えます。

ダイヘンは、変圧器や半導体製造装置向け電源の大手です。当ファンドでは、半導体や電力インフラ向けの設備投資需要の増加に期待して投資を行っています。当期においては、半導体や蓄電システム関連の設備投資需要への期待感を背景に好調な業績推移となったことから株価が上昇したものと考えます。

西日本フィナンシャルホールディングスは、福岡を本拠とする西日本シティ銀行などを有する持株会社です。当ファンドでは、金利環境正常化を背景とした利益成長に対して株価が割安と判断し投資を行っています。当期においては、金利上昇に伴う業績改善や、将来の金利上昇期待の高まりなどで株価が上昇したものと考えます。

（主なマイナス要因）

当期のパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄は、大黒天物産、ペプチドリーム、サイバーエージェントなどです。

大黒天物産は、西日本を中心にディスカウントストアを展開している企業です。当ファンドでは、同社の社長交代に伴い、過去抑制していたコスト上昇分の価格転嫁が進むことによる利益率の改善に期待して投資を行っています。当期においては、実質賃金の低下に伴う生活必需品全般の消費マインド低下の影響で、価格転嫁がさらに遅れ業績が悪化したことなどが嫌気され株価が下落したものと考えます。

ペプチドリームは、ペプチド創薬に強みを持つバイオベンチャー企業です。当ファンドでは、将来的な創薬開発による収益獲得機会に対して株価が割安と判断し投資を行っています。当期においては、開発や提携一時金の獲得の進捗が見られないことなどが嫌気され株価が下落したものと考えます。

サイバーエージェントは、ネット広告代理店、ゲーム、メディアなどを多角的に展開している企業です。当ファンドでは、自社IP(知的財産)の創出を中心とするビジネスモデルへの転換が進むことを期待して投資を行っています。当期においては、新作ゲームが前期比で小規模であった点や広告における顧客離れなどが懸念され株価が下落したものと考えます。

〔組入上位10銘柄〕

前期末(2025年6月20日)

	銘柄名	比率(%)
1	前田工織	4.10
2	西日本フィナンシャルホールディングス	3.02
3	五洋建設	2.93
4	サイバーエージェント	2.84
5	リログループ	2.51
6	日精エー・エス・ビー機械	2.50
7	武蔵野銀行	2.46
8	J. フロント リテyling	2.31
9	月島ホールディングス	2.12
10	カナモト	2.06

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

当期末(2026年6月22日)

	銘柄名	比率(%)
1	西日本フィナンシャルホールディングス	4.34
2	前田工織	3.27
3	ダイヘン	3.21
4	TOWA	3.14
5	日精エー・エス・ビー機械	2.84
6	大垣共立銀行	2.78
7	関東電化工業	2.66
8	AGC	2.52
9	NOK	2.49
10	ほくほくフィナンシャルグループ	2.44

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

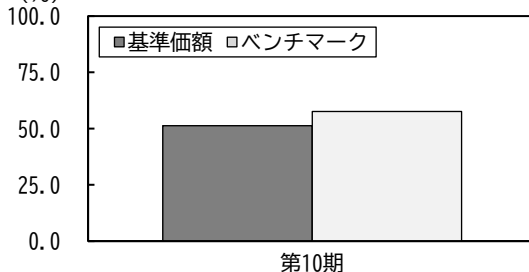
■ ベンチマークとの差異

当期、当ファンドの騰落率は51.3%となり、ベンチマークの騰落率である57.6%を下回りました。

ベンチマークとの比較において、業種効果はマイナスに、銘柄選択効果はプラスになりました。業種単位では医薬品、銀行業、海運業などがプラスに、サービス業、非鉄金属、電気機器などがマイナスに影響しました。

※ ベンチマークは、「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)
(%)



第10期
(2025/6/21 ~ 2026/6/22)

(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

■ 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔 分配原資の内訳 〕

（単位：円 1万口当たり・税込み）

項 目	第10期 (2025年6月21日～ 2026年6月22日)
当期分配金 (対基準価額比率)	— (— %)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	34,157

(注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注2) 該当欄に数値がない場合は「—」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。

(注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

< スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） >

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。

< スパークス・日本中小型株・マザーファンド >

AI・半導体関連株が主導する形で日本株式市場の上昇が続いていますが、相場の牽引役は一部銘柄に偏り、相場は二極化の様相を強めています。引き続き、変動率の高い相場展開が続くものと考えています。

中東情勢の緊張緩和に向けた協議の進展は喜ばしいニュースではあるものの、サプライチェーンの混乱に起因するコストアップは避けられないと考えています。しばらくの間、世界経済へのインフレ圧力と、国内消費への影響に留意する必要があると考えています。

当ファンドでは、企業の収益性に対する意識改革に引き続き注目しており、適時の価格改定による収益性改善が期待される企業への選別投資を行っていきたいと考えています。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

「一般社団法人投資信託協会」を「一般社団法人資産運用業協会」に変更するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

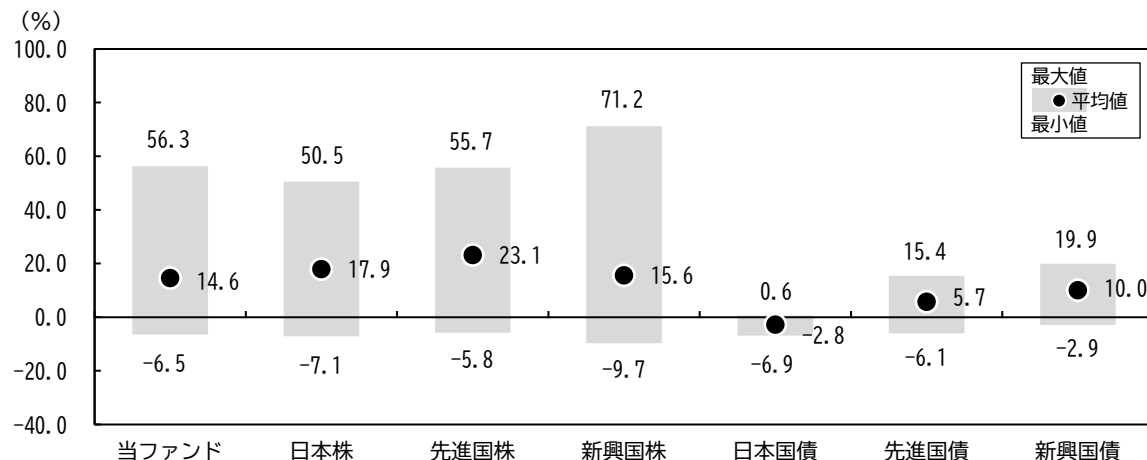
<変更適用日：2026年4月1日>

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	無期限（2016年9月23日設定）	
運 用 方 針	この投資信託は、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本の金融商品取引所上場株式を中心に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	当ファンド	主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に実質的に投資します。また、資金動向・市況動向等によってはわが国の金融商品取引所上場株式等に直接投資することもあります。
	スパークス・日本中小型株・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	① 設定当初および大量の解約が発生した時等を除いて、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、以下の投資態度で臨みます。 ② 主として金融商品取引所上場株式の中小型株式の中から、徹底したボトムアップ・リサーチに基づいて銘柄を選択し、ポートフォリオを構築します。 ③ ベンチマークはラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数（配当込み）とし、これを上回る投資成果を目指して運用を行います。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

（参考情報）

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較（2021年6月末～2026年5月末）



（注1）2021年6月～2026年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

（注2）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注3）当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

（注4）上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日 本 株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

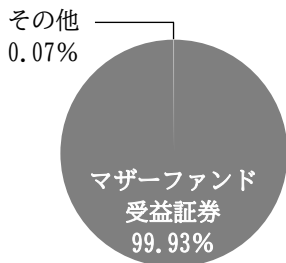
当ファンドのデータ

■ 組入資産の内容 （2026年6月22日現在）

< 組入ファンド >

ファンド名	第10期末 2026年6月22日
スパークス・日本中小型株・マザーファンド	99.93%
組入銘柄数	1ファンド

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

項 目	第10期末 2026年6月22日
純資産総額	1,371,075,901円
受益権総口数	310,496,892口
1万口当たり基準価額	44,157円

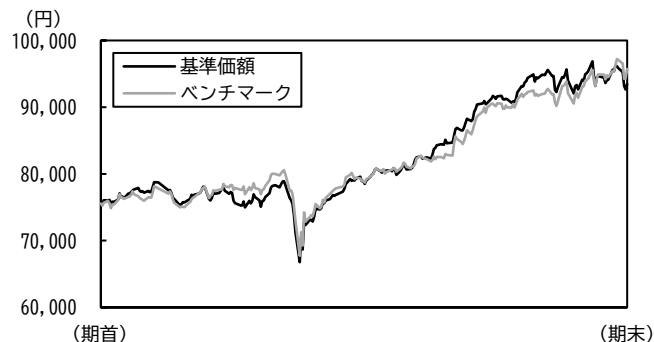
(注) 当期中における追加設定元本額は49,941,403円、同解約元本額は120,325,999円です。

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容 （2025年11月20日現在）

【スパークス・日本中小型株・マザーファンド】

< 基準価額の推移 >

（2024年11月21日～2025年11月20日）



※ ベンチマークは期首(2024年11月20日)の基準価額に合わせて指数化しております。

< 組入上位10銘柄 >

	銘柄名	比率(%)
1	前田工織	4.07
2	西日本フィナンシャルホールディングス	3.84
3	五洋建設	3.05
4	武蔵野銀行	2.94
5	リロググループ	2.40
6	サイバーエージェント	2.39
7	日精エー・エス・ピー機械	2.37
8	ダイヘン	2.22
9	A G C	2.16
10	N O K	2.16
組入銘柄数		65銘柄

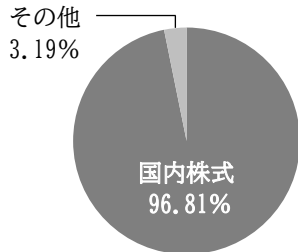
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

項 目	当期 2024年11月21日～2025年11月20日	
	金 額	比 率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	50円 (50)	0.060% (0.060)
合 計	50	0.060

期中の平均基準価額は82,687円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2025年11月20日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国を表示しています。

指数に関して

< 当ファンドのベンチマークである「ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)」について >

ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)は Russell/Nomura 日本株インデックスのサイズ別指数です。Russell/Nomura 日本株インデックスは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、その知的財産権は NFRC 及び Russell Investments に帰属します。なお、NFRC 及び Russell Investments は、ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)を用いて行う事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXは、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社(以下「J P X」といいます。)の知的財産であり、J P X は TOPIX の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX の算出もしくは公表の停止または TOPIX の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

日本国債：NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、NFRC およびその許諾者に帰属します。NFRC は、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債：FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

新興国債：FTSE 新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE 新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。